

ばんしん景況レポート

〒670-0962
姫路市南駅前町110番地



中小企業景気動向調査 2020年4月～6月期 NO. 59

照会先 経営企画部
TEL 079-281-3939代
FAX 079-281-4667

【概況】 2020年4月～6月期の業況は▲50.0、前期比 51.7ポイントマイナスと厳しさを強めました。
来期は両地域とも上向き見通しです。

景気動向調査主要指数D.I（総合）

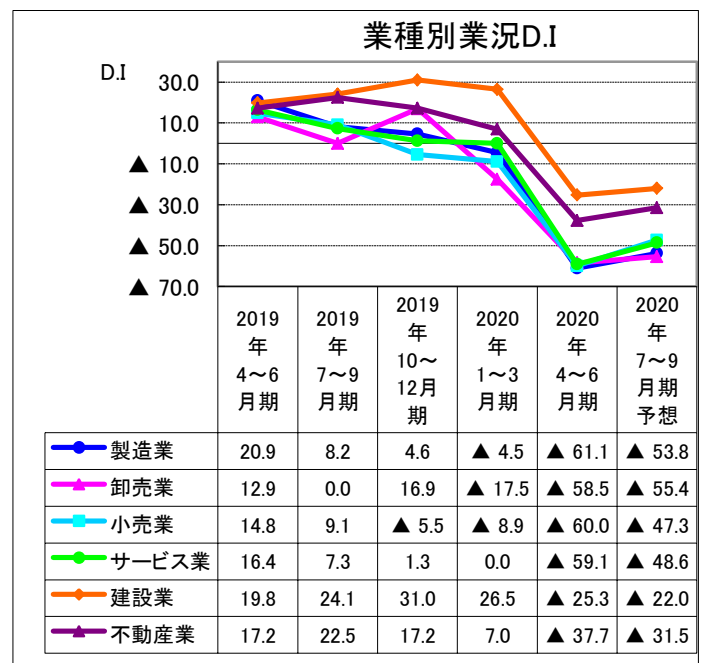
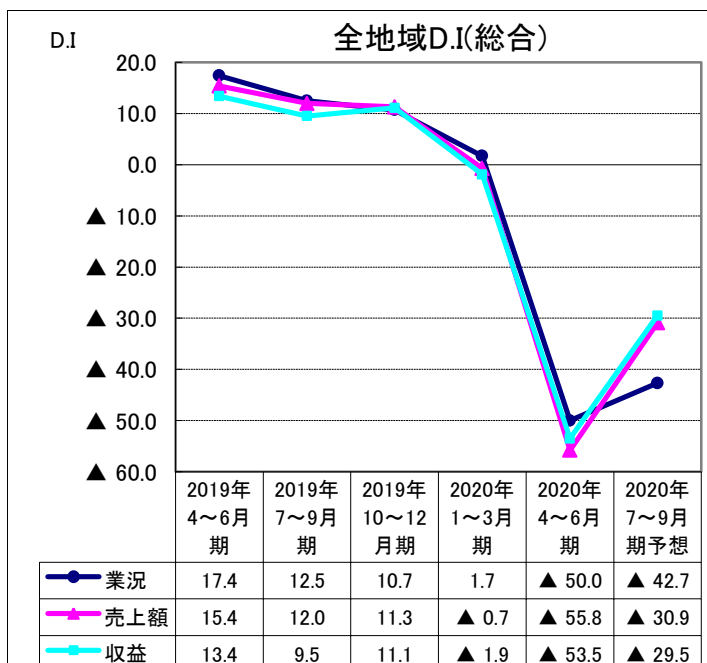
項目	全地域			姫路地域			神戸地域		
	2020年1月～3月期	2020年4月～6月期	2020年7月～9月期予想	2020年1月～3月期	2020年4月～6月期	2020年7月～9月期予想	2020年1月～3月期	2020年4月～6月期	2020年7月～9月期予想
業況	1.7	▲ 50.0	▲ 42.7	1.9	▲ 51.7	▲ 42.6	1.5	▲ 48.0	▲ 40.7
売上額	▲ 0.7	▲ 55.8	▲ 30.9	▲ 6.0	▲ 56.8	▲ 36.4	5.2	▲ 55.1	▲ 25.7
収益	▲ 1.9	▲ 53.5	▲ 29.5	▲ 6.0	▲ 56.1	▲ 33.7	2.2	▲ 51.1	▲ 26.1
販売価格	1.2	▲ 12.4	▲ 10.5	0.9	▲ 13.3	▲ 11.4	1.5	▲ 11.1	▲ 9.2
仕入価格	8.6	▲ 3.7	▲ 4.8	7.0	▲ 1.9	▲ 4.6	10.4	▲ 4.8	▲ 4.1
在庫	▲ 0.2	0.2	0.5	0.0	▲ 3.1	▲ 0.5	0.0	0.0	▲ 0.5
資金繰り	4.2	▲ 22.3	▲ 17.1	1.9	▲ 24.2	▲ 18.6	7.0	▲ 20.7	▲ 13.7
人手	▲ 24.8	▲ 7.3	▲ 8.1	▲ 29.9	▲ 11.4	▲ 12.5	▲ 17.5	▲ 5.2	▲ 6.3
設備状況	▲ 8.8	▲ 6.3	▲ 7.0	▲ 10.7	▲ 7.1	▲ 8.9	▲ 6.5	▲ 7.0	▲ 6.4

2020年4月～6月期実績

《 全業種で低迷する 》
当期の全地域の全業況D.Iは▲50.0、前期比51.7ポイントマイナスと厳しさを強めました。
全地域の業種別では、全業種において低迷しました。

2020年7月～9月期見通し

《 両地域とも上向き見通し 》
来期の全地域の全業種予想業況D.Iは▲42.7、当期比7.3ポイントプラスと上向き見通しです。
全地域の業種別では、全業種において上向き見通しです。
地域別では、両地域とも上向き見通しです。



調査要領

1. 調査目的

当金庫営業地域内の景気動向を把握し、お取引先の経営者の皆様に景気に関する情報提供をおこない、経営にお役立ていただくことを目的としています。

2. 調査時期

2020年6月上旬

3. 調査対象期間

2020年4月～6月期実績（2020年1月～3月期との比較）

2020年7月～9月期予想（2020年4月～6月期実績との比較）

4. 調査方法

調査員による「面接聞き取り調査」

5. 分析方法

本調査はD.I（ディフュージョン・インデックス）による分析

D.Iとは、景気が「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」、「楽」と回答した企業の割合から「悪い」、「減少」、「下降」、「不足」、「苦しい」と回答した企業の割合を差し引いた構成比差から景気の方角を判断する指数です。

6. 調査地域

姫路地域・・・姫路地区（姫路市）

東播地区（加古川市・高砂市・三木市・稲美町）

西播地区（赤穂市・相生市・たつの市・太子町）

北播地区（加西市・福崎町）

神戸地域・・・神戸地区（神戸市・西宮市・尼崎市・宝塚市・伊丹市）

明石地区（明石市・神戸市西区）

※調査地域については、上記地区に所在する当金庫支店を基準とした地域設定であります。

調査先および回答状況

	依頼数	回答数	回答率
製造業	112	109	97.3%
卸売業	66	66	100.0%
小売業	56	56	100.0%
サービス業	151	150	99.3%
建設業	84	83	98.8%
不動産業	131	130	99.2%
合計	600	594	99.0%

本レポートは、標記時点における情報提供のみを目的としたものであります。したがって投資等や施策実施に関する最終決定はご自身の判断でなされるようお願いいたします。また、本レポート掲載資料については、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

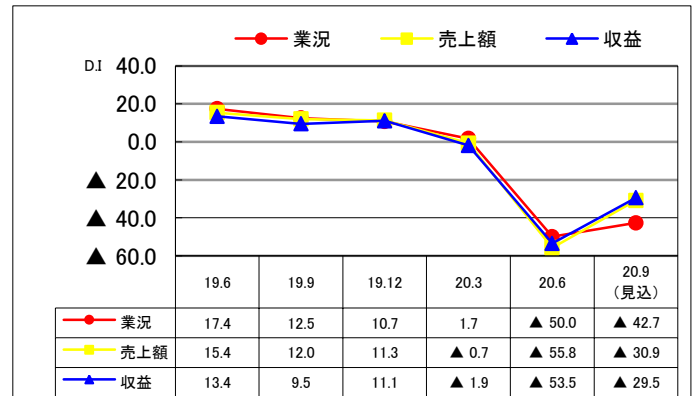
1. 業況

全業種における業況D. Iは▲50.0、前期比51.7ポイントマイナス（前年同期比 ▲67.4）と厳しさを強めました。

業種別では、全業種において低迷しました。

来期予想D. Iは▲42.7、当期比7.3ポイントプラスと上向き見通しです。

業種別では、全業種において上向き見通しです。



2. 売上額

全業種における売上額D. Iは▲55.8、前期比55.1ポイントマイナス（前年同期比 ▲71.2）と低迷しました。

業種別では、全業種において低迷しました。

来期予想D. Iは▲30.9、当期比24.9ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。

業種別では、建設業以外の業種において上向き見通しです。

3. 収益

全業種における収益D. Iは▲53.5、前期比51.6ポイントマイナス（前年同期比 ▲66.9）と低迷しました。

業種別では、全業種において低迷しました。

来期予想D. Iは▲29.5、当期比24.0ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。

業種別では、全業種において改善する見通しです。

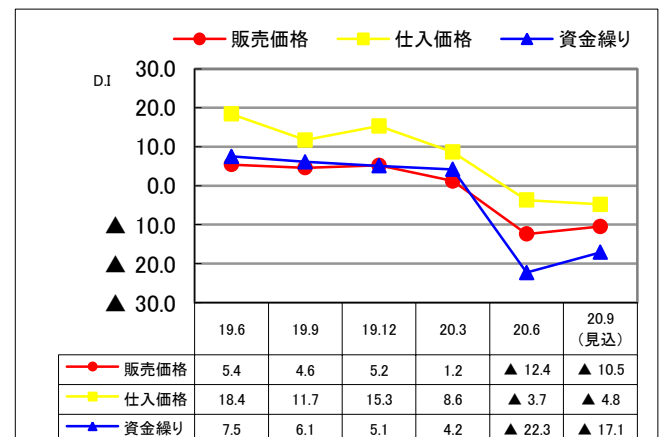
4. 資金繰り

全業種における資金繰りD. Iは▲22.3、前期比26.5ポイントマイナス（前年同期比 ▲29.8）と窮屈感が現れました。

業種別では、全業種において厳しさが増しました。

来期予想D. Iは▲17.1、当期比5.2ポイントプラスと厳しさが和らぐ見通しです。

業種別では、全業種において和らぐ見通しです。



5. 販売価格

全業種における販売価格D. Iは▲12.4、前期比13.6ポイントマイナス（前年同期比 ▲17.8）とさらに下降を強めました。

業種別では、卸売業において上昇しました。

来期予想D. Iは▲10.5、当期比1.9ポイントプラスと厳しさが和らぐ見通しです。

業種別では、建設業において低下する見通しです。

6. 仕入価格

全業種における仕入価格D. Iは▲3.7、前期比12.3ポイントマイナス（前年同期比 ▲22.1）とさらに下降を強めました。

業種別では、全業種において低迷しました。

来期予想D. Iは▲4.8、当期比1.1ポイントマイナスと下降幅が拡大する見通しです。

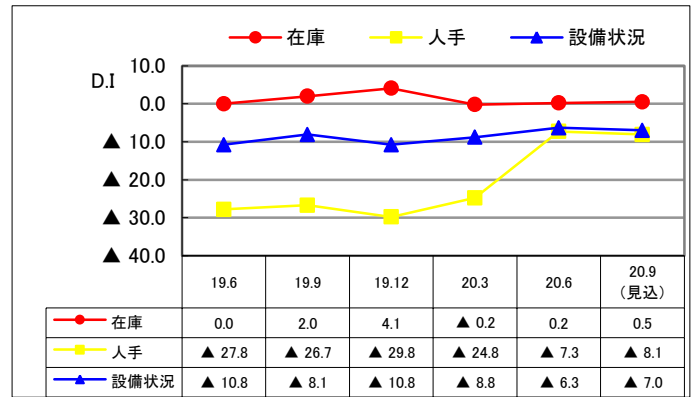
業種別では、製造業、卸売業において上昇する見通しです。

7. 在庫

全業種における在庫D.Iは0.2、前期比0.4ポイントプラス（前年同期比+0.2）と在庫過剰に転じました。業種別では、製造業と建設業において不足感が強まりました。

来期予想D.Iは0.5、当期比0.3ポイントプラスと在庫が積み増す見通しです。

業種別では、不動産業において不足感が強まる見通しです。



8. 人手

全業種における人手D.Iは▲7.3、前期比17.5ポイントプラス（前年同期比+20.5）と不足感が改善しました。

業種別では、全業種において不足感が改善しました。

来期予想D.Iは▲8.1、当期比0.8ポイントマイナスと不足感が強まる見通しです。

業種別では、小売業、建設業、不動産業において不足感が強まる見通しです。

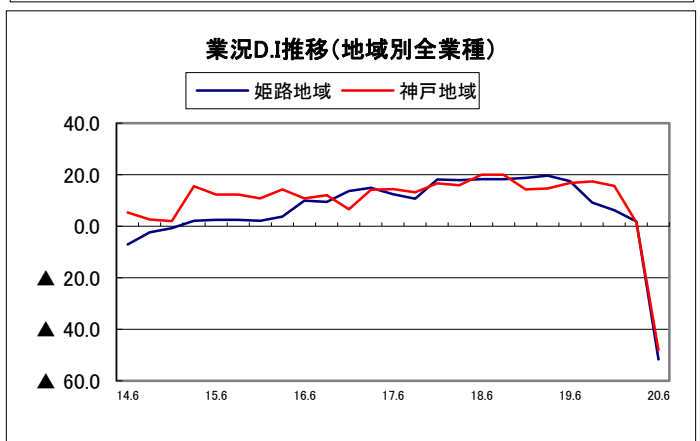
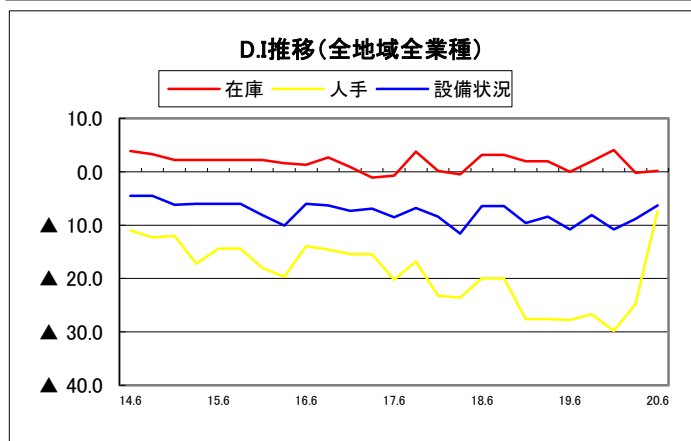
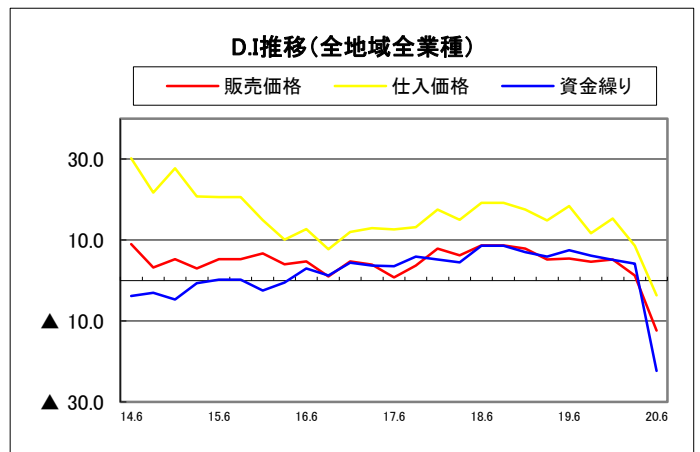
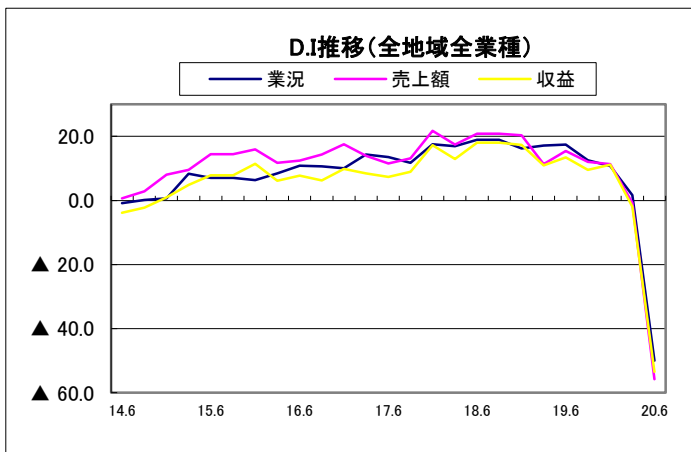
9. 設備状況

全業種における設備状況D.Iは▲6.3、前期比2.5ポイントプラス（前年同期比+4.5）と改善しました。

また、設備投資を行ったと回答した企業の割合は18.5%、前期比10.0ポイントマイナス（前年同期比▲13.4）と減少しました。業種別では、建設業において設備投資を行った企業の割合が増加しました。

来期に設備投資を行うと回答した企業の割合は20.5%、当期比2.0ポイントプラスと増加する見通しです。

過去D.I推移



地域別景況D. I

□ 全業種総合

(姫路地域) 回答企業322企業 (回答率99.3%)
 (神戸地域) 回答企業272企業 (回答率98.5%)

1. 業況

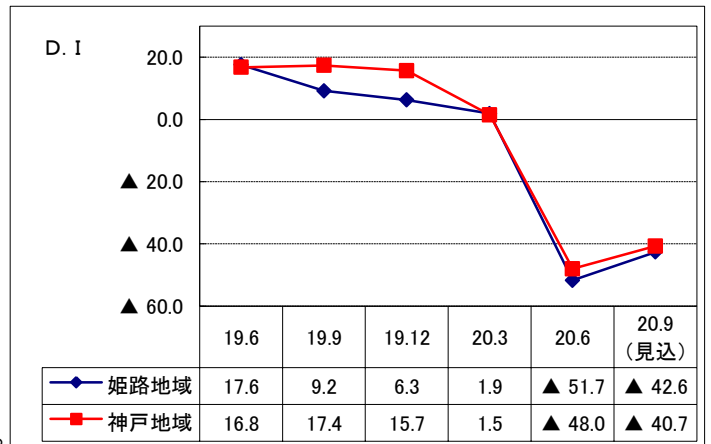
姫路地域の業況D. Iは▲51.7、前期比53.6ポイントマイナス（前年同期比 ▲69.3）と厳しさを強めました。

来期予想D. Iは▲42.6、当期比9.1ポイントプラスと上向き見通しです。

神戸地域の業況D. Iは▲48.0、前期比49.5ポイントマイナス（前年同期比 ▲64.8）と厳しさを強めました。

来期予想D. Iは▲40.7、当期比7.3ポイントプラスと上向き見通しです。

当期の地域別業況は、両地域とも厳しさを強めました。



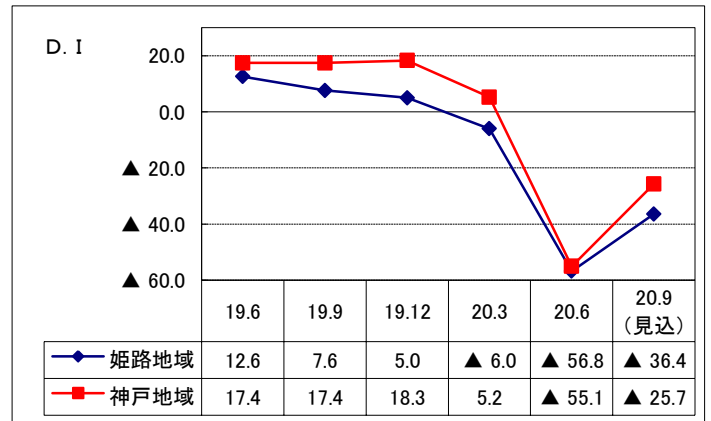
2. 売上額

姫路地域の売上額D. Iは▲56.8、前期比50.8ポイントマイナス（前年同期比 ▲69.4）と低迷しました。

来期予想D. Iは▲36.4、当期比20.4ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。

神戸地域の売上額D. Iは▲55.1、前期比60.3ポイントマイナス（前年同期比 ▲72.5）と水面下に落ち込みました。

来期予想D. Iは▲25.7、当期比29.4ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。



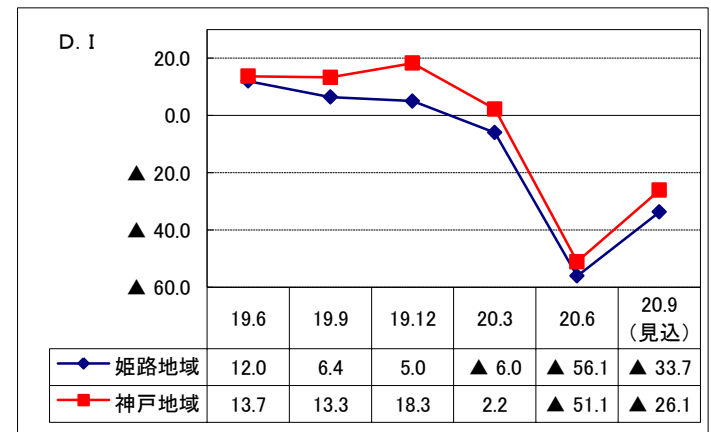
3. 収益

姫路地域の収益D. Iは▲56.1、前期比50.1ポイントマイナス（前年同期比 ▲68.1）と低迷しました。

来期予想D. Iは▲33.7、当期比22.4ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。

神戸地域の収益D. Iは▲51.1、前期比53.3ポイントマイナス（前年同期比 ▲64.8）と水面下に落ち込みました。

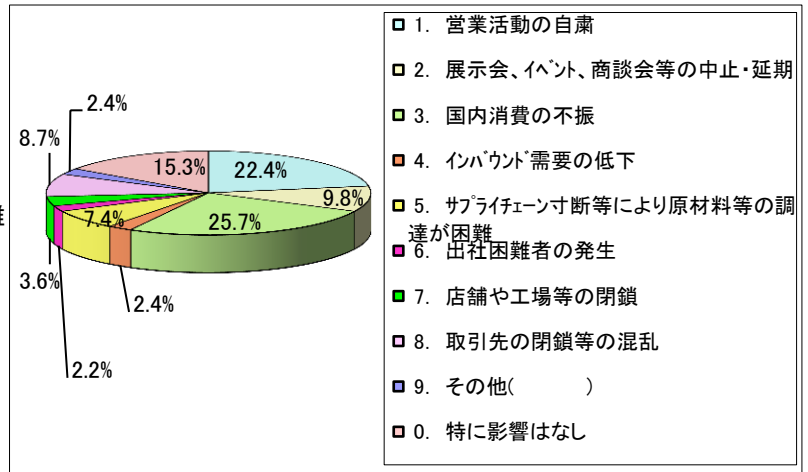
来期予想D. Iは▲26.1、当期比25.0ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。



特別調査 「新型コロナウイルスの感染拡大による中小企業への影響について」

問1 貴社の事業活動は、新型コロナウイルスによる影響を受けていますか。次の1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。特に影響がなかった方は、0とお答えください。

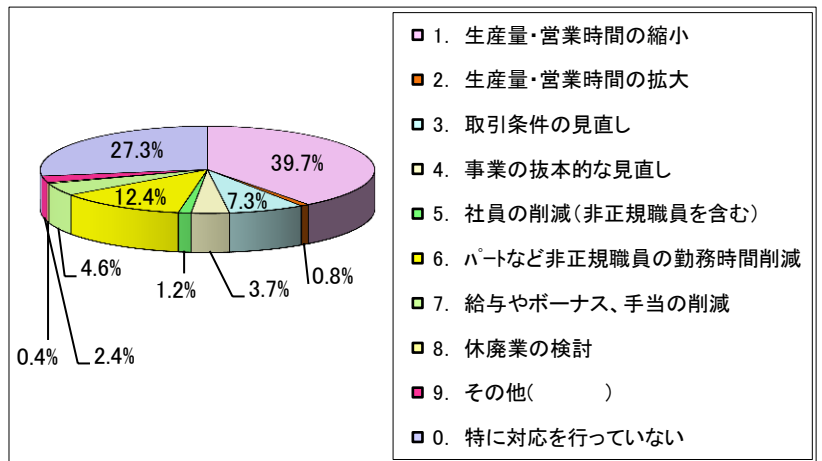
1. 営業活動の自粛
2. 展示会、イベント、商談会等の中止・延期
3. 国内消費の不振
4. インバウンド需要の低下
5. サプライチェーン寸断等により原材料等の調達が困難
6. 出社困難者の発生
7. 店舗や工場等の閉鎖
8. 取引先の閉鎖等の混乱
9. その他()
0. 特に影響はなし



事業活動が新型コロナウイルスによる影響を受けているかについて、最も多い回答は「国内消費の不振」25.7%、次に「営業活動の自粛」22.4%、次いで「特に影響はなし」15.3%という結果になりました。

問2 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、貴社ではどのような対応をとられていますか。次の1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。特に対応を行っていない方は、0とお答えください。

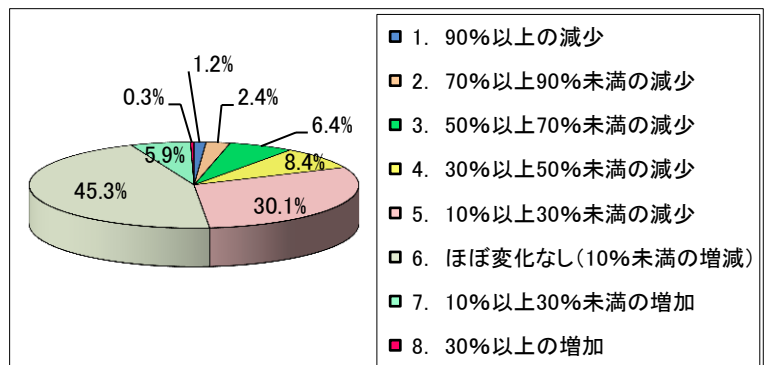
1. 生産量・営業時間の縮小
2. 生産量・営業時間の拡大
3. 取引条件の見直し
4. 事業の抜本的な見直し
5. 社員の削減（非正規職員を含む）
6. パートなど非正規社員の勤務時間削減
7. 給与やボーナス、手当の削減
8. 休廃業の検討
9. その他()
0. 特に対応を行っていない



新型コロナウイルス感染拡大を受けてどのような対応をとっているかについて、最も多い回答は「生産量・営業時間の縮小」39.7%、次に「特に対応を行っていない」27.3%、次いで「パートなど非正規社員の勤務時間削減」12.4%という結果になりました。

問3 貴社における今期（4～6月）の売上は、仮に新型コロナウイルスの影響がなかった場合（例年の4～6月）と比較して、どの程度変化しましたか。次の1～8の中からお答えください。

1. 90%以上の減少
2. 70%以上90%未満の減少
3. 50%以上70%未満の減少
4. 30%以上50%未満の減少
5. 10%以上30%未満の減少
6. ほぼ変化なし（10%未満の増減）
7. 10%以上30%未満の増加
8. 30%以上の増加

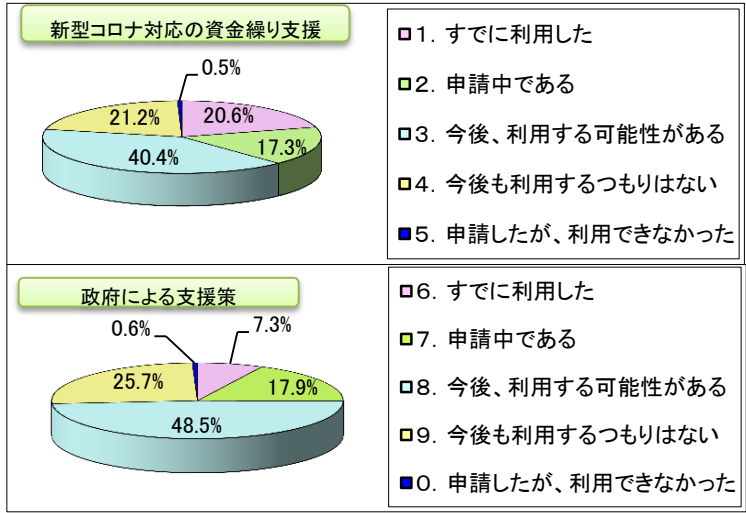


今期（4～6月）の売上は、仮に新型コロナウイルスの影響がなかった場合（例年の4～6月）と比較して、どの程度変化したかについて、最も多い回答は「ほぼ変化なし（10%未満の増減）」45.3%、次いで「10%以上30%未満の減少」30.1%という結果になりました。

問4 貴社では、危機関連保証や制度融資など、新型コロナ対応の資金繰り支援制度を利用しましたか。1～5の中からお答えください。また、資金繰り以外の政府による支援策（補助金、休業補償、減税、納税猶予など）を受けましたか。6～0の中からお答えください。

- 新型コロナ対応の資金繰り支援制度**
1. すでに利用した
 2. 申請中である
 3. 今後、利用する可能性がある
 4. 今後も利用するつもりはない
 5. 申請したが、利用できなかった

- 政府による支援策**
6. すでに利用した
 7. 申請中である
 8. 今後、利用する可能性がある
 9. 今後も利用するつもりはない
 0. 申請したが、利用できなかった

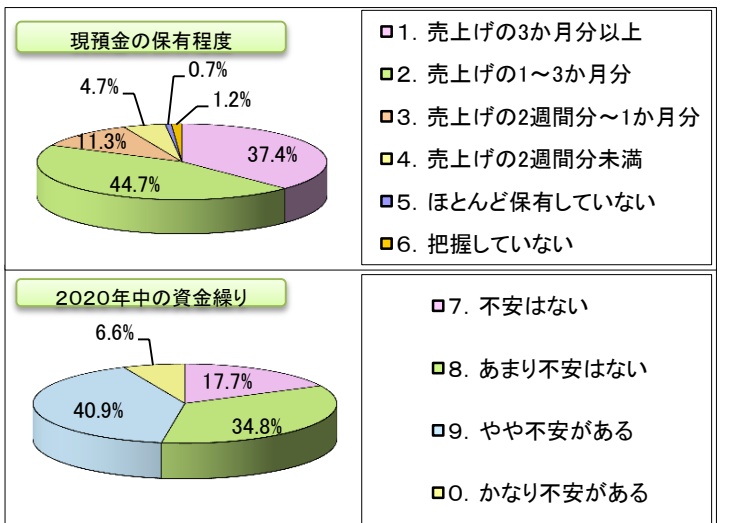


危機関連保証や制度融資など、新型コロナ対応の資金繰り支援制度を利用したかについて、最も多い回答は「今後、利用する可能性がある」40.4%、次いで「今後も利用するつもりはない」21.2%という結果になりました。また、資金繰り以外の政府による支援策を受けたかについて、最も多い回答は「今後、利用する可能性がある」48.5%、次いで「今後も利用するつもりはない」25.7%という結果になりました。

問5 災害や急な不況の対策として、常時、手元の流動性資金の確保をしていますが、貴社では、新型コロナウイルスの影響が出る以前、現預金をどの程度保有していましたか。現預金の保有が最も少ない時期（売掛金の回収直前など）を想定したうえで、1～6の中からお答えください。また、貴社では2020年中の資金繰りについて、どうお考えですか。7～0の中からお答えください。

- 現預金の保有程度**
1. 売上げの3か月分以上
 2. 売上げの1～3か月分
 3. 売上げの2週間分～1か月分
 4. 売上げの2週間分未満
 5. ほとんど保有していない
 6. 把握していない

- 2020年中の資金繰り**
7. 不安はない
 8. あまり不安はない
 9. やや不安がある
 0. かなり不安がある



新型コロナウイルスの影響が出る以前、現預金をどの程度保有していたかについて、最も多い回答は「売上げの1～3か月分」44.7%、次いで「売上げの3か月分以上」37.4%という結果になりました。また、2020年中の資金繰りについてどう考えているかについて、最も多い回答は「やや不安がある」40.9%、次いで「あまり不安はない」34.8%という結果になりました。